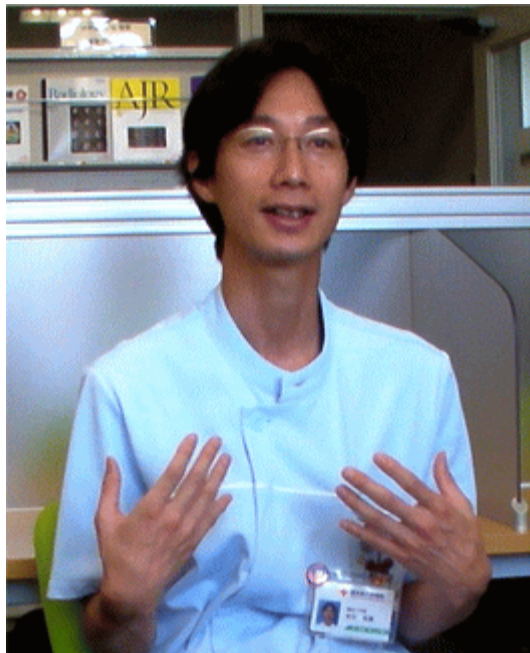


救護第17班 4月13日～4月20日 臨床工学技士・米村 和憲



石巻では、赤十字病院の臨床工学技士のお手伝いで、人工透析を5日間。周りの透析病院が被害に遭い、赤十字病院に集中していたようで、1日に8回実施したこともあったそうです。私は多くて3回。熊本では通常2回で、1回にかかる時間も4～5時間ですが、石巻では3～4時間でした。



人工透析は通常、週に3回行いますが、震災で病院に行けず、8日間受けていない方もいたそうです。ただ災害で特徴的なのは、食べられない、飲めない、動けないという状況なので、通常ほど血液に老廃物が溜まらないということはあります。

患者さんは避難所からの通院が多く、家族が亡くなられた方もいました。避難所の集団生活は、それだけでも大変な苦勞をされているだろうと。セキが出るのを我慢して夜に眠れない人もいます。透析室にいただけでは派遣の実感もわからないので、1日は診療所の手伝い、1日は被災地を視察しました。

震災から1カ月がたち、私たちは食住は苦勞しませんでした。睡眠不足気味でした。大きな余震も2度ほどあり、ずっと余震が続いている状態だったので、帰熊したときはほっとしました。

現地で透析の仕事は5日間しかできませんでした。慣れるのに2～3日かかるのに、やっと慣れたら去ってゆく。そんな短期間の救護支援チームを次々に受け入れるのは、現地のスタッフにとっては非常に大変なことだろうな、と思いました。